☆

安部順二下議

安部順二連邦下議（７３、二世）に軍政５０年への見解を問うと「〃革命〃についてですね」と応じた。伯字紙は「Golpe（クーデター）」と書くが、肯定する派は「Revolucao（革命）」とし、見解が分かれている。

「〃革命〃前年の６３年、私は２４歳でしたが、モジの友人らと１０人ほどでコンビに乗って、ブラジリアの田村幸重議員に話を聞きに行った。『ジャンゴ（ジョアン・グラール大統領）が農地改革をするのではないかと心配だ』と彼が言ったのを聞き、心底驚きました。すぐに帰って親と相談し、反対運動を起こした」という。

日系人の多くが農業に従事していた６０年代はコチア産組、南伯農協などの全盛期でもあった。「日系人は苦労して土地を手に入れて農業で生活をたてて来た。その土地が農地改革によって二束三文で泣く泣く取り上げられるかと思ったら黙っていられなかった」。

共産主義に共鳴するジャンゴよりも、軍政に親近感を抱くのも無理はない状況だった。だから〃革命〃が起きた時は、むしろ安堵した側だった。「最初のカステロ・ブランコ将軍の頃は２年とか４年で民政に戻すという話だった。ところが彼が飛行機事故で変な死に方をし、その後まさか２１年も続くとは誰も思っていなかった」という意外な展開を迎えた。

一度権力を掴んだ軍事政権は、民衆から離れて一人歩きを初めた。１９６８年頃から左派学生への弾圧を強め始め、その流れの延長線上に６９年からのバンデイランテス作戦、７０年からのＤＯＩーＣｏｄｉに結実していった。（つづく、深沢正雪記者）